

記事URL：

<https://pharma.all.nikkeibp.co.jp/atcl/news/p1/25/11/05/13937/?ST=pb>

このページに掲載されている記事、写真、図表などの無断転載を禁じます。

著作権は日経BP、または、その他執筆者に帰属します。

なお、掲載している情報は、記事執筆時点のものです。

再生医療等評価部会、東海大学医学部附属病院の変形性膝関節症 に対する羊膜由来MSCの移植計画を大筋で了承

2分

2025.11.06 菊池結貴子



(撮影＝日経バイオテック)

厚生労働省は2025年11月5日、第111回厚生科学審議会再生医療等評価部会を開いた。東海大学医学部附属病院が提出した、変形性膝関節症に対して他家羊膜由来間葉系幹細胞（MSC）を移植する臨床研究に対し、第一種再生医療等提供計画への適

合性を「軽微な修正点について座長預かり」（厚労省の担当者）として、大筋で確認し、実施を了承する方向となった。

同日提供の資料によると、同治療は健常妊婦の羊膜から、胎児の分娩後にMSCを分離・培養し、注射器で膝関節腔内に羊膜由来MSCを注射する。変形性膝関節症の患者12例に対し、6例はMSC1000万個、6例は5000万個を投与し、投与後4、12、24週間後にフォローアップ検査をする計画だ。

MSC由来の炎症抑制成分が膝の痛みなどを改善することが期待されている。MSCはカネカの細胞培養加工施設（CPC）で培養するという。同計画は2025年7月開催の第108回厚生科学審議会再生医療等評価部会で継続審議とされており、計画を修正した上で今回改めて審議された。今後、今回の部会での指摘点について軽微な修正を加えた上で第一種再生医療等提供計画としての適合性が確認され、実施が了承される予定だ。



Copyright Nikkei Business Publications, Inc.